

9/19(祝) - /22(木)(祝)

会場

19日 芸能花伝舎 A-1 —東京都新宿区西新宿6-12-30

20日・21日 梅ヶ丘 BOX —東京都世田谷区梅丘1-24-14フリースペースB1F

22日 未定 —Webサイトでお知らせします

# せりふを 読んで みよう

## 劇作家と俳優のための せりふの読みかた ワークショップ

次代を担う劇作家を育成するためのプロジェクト

俳優募集！  
ワークショップに参加する俳優を募集

応募受付期間

8月22日(祝)10:00～9月1日(木)23:59

見学者募集！  
初日と最終日は一般公開

予約受付開始

8月17日(水)

第3回 講師 坂手洋二

## せりふの奥にある宇宙

劇作家が戯曲を書くとき、せりふと書きによって表現しますが、その実態は文字になっていない領域を作っている作業に他なりません。俳優も戯曲からその文字になっていない領域を読み取るのです。そういった意味で、劇作家が直接俳優に語りかけることは、俳優がより深く戯曲を読み解くうえで、とても重要な作業だといえます。また、若手の劇作家にとっても、説得力を持つせりふを書くために俳優の作業を知ることが重要なのです。

これは、劇作家と俳優それぞれの立場の相互理解を深めながら、せりふに対して考える4日間のワークショップです。

——中津留章仁

## そのせりふに、 衝動はあるか？

俳優が指定された抑揚を付けて表情豊かに「せりふ」を読んだところで、生きた人間は見えてきません。劇作家が人間を描こうとするときには、「せりふ」という文字の羅列ではなく、その裏に潜む衝動こそを描いているからです。

生きた「せりふ」を発するためには、「せりふ」に潜む衝動を探り、その衝動に基づいて発語する必要があります。この衝動と衝動がぶつかるところにこそ、ドラマが生まれるのです。

——古川貴義



文化庁委託事業「平成28年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

主催：文化庁 / 一般社団法人 日本劇作家協会

制作：一般社団法人 日本劇作家協会



日本  
劇作家  
協会

詳細は劇作家協会 Webサイトで

<http://www.jpwa.org>